



現金・預金

使い方

- 画面をクリックするとプログラムが進んでいきます。
-  をクリックすると次のページに進みます。
-  をクリックすると前のページに戻ります。
- ページ数は右下に表示されています。

目次

1. 現金とは？
2. 現金の仕訳
3. 現金過不足
4. 小口現金
5. 当座預金
6. 当座借越



今回は私が案内するよ！

今回は現金について
説明する。

1. 現金

まずは、簿記でつかう「現金」について説明するよ。

一般に「現金」といえば、サイフに入っているお金、つまり紙幣や硬貨のことをいうんだけど、簿記ではその他にすぐに換金できるものも含むんだ!

『仕訳』のフラッシュで

**帳簿をつける意味の一つは「整理すること」だから、
ある程度まとまった概念で付けておく方が都合がいい**

といったけど、そういう意味では、すぐに換金できるようなものは現金としてまとめちゃった方が都合がいいんだね。

そのことを整理すると...



1. 現金

①通貨

紙幣や硬貨

②通貨代用証券

・郵便為替証書

郵便局で行っている簡易的な送金のこと。

これを郵便局に呈示すると現金に換えられる。

・支払期限の到来した公社債の利札

所有する公社債(国債、地方債、社債)の利払日が到来。

・配当金領収証

会社が持っている株の配当金を受け取った。

・他人振り出しの小切手

詳しくは「5. 当座預金」で説明するよ。



2. 現金の仕訳

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	資産	(貸方)
	資産 100,000	負債 40,000 資本 60,000		増加(+)	減少(-)

現金は資産に含まれる勘定なので、
増加は借方(左側)に、減少は貸方(右側)に記入するんだ！

☆現金が増加したとき
(借方) **現金** ××× (貸方) ×××

☆現金が減少したとき
(借方) ××× (貸方) **現金** ×××



2. 現金の仕訳

先ほど説明した通貨代用証券のなかで代表的な仕訳も紹介しておく。

・配当金領収証

(借方) **現金** × × × (貸方) **受取配当金** × × ×

・支払期限の到来した公社債の利札

(借方) **現金** × × × (貸方) **有価証券利息** × × ×

とりあえず覚えてしまおう！



3. 現金過不足

ここでは、「現金過不足」について説明するよ。

ちょっと想像してもらえばわかるんだけど、現金に関する取引はとて多いんだ。

商品を仕入れたり、売ったり、お金を貸したり、借ったり...

そんなわけで、

実際に金庫に入っている額と帳簿に記入されている額が一致しないことがあるんだ。

これを「現金過不足」といい、「現金過不足」勘定で仕訳するんだ。

この「現金過不足」について、もうちょっと具体的にみていこう！



3. 現金過不足

① 現金の実際有高が帳簿残高より¥3,000多かった。

当然、**実際有高に帳簿を合わせる**ので、この場合は、「帳簿の現金勘定は増やしとかないと！」と考えるんだ！

そこで

(借方) **現金 3,000** (貸方) **現金過不足 3,000**

と仕訳する。

ところで、**現金過不足勘定**は5つの要素のうち、どれだろうか？
資産？ 負債？ それとも...？



3. 現金過不足

実は...

「仕訳」のフラッシュで

「仕訳に出てくる勘定は資産・負債・資本・費用・収益に分けられる」といったんだけど、実はこの「現金過不足」はそのどれにも分けられない数少ない勘定の一つなんだ！

ちょっと考えてみて欲しい。

さっき

① 現金の実際有高が帳簿残高より¥3,000多かった。

としたんだけど、コレはどこかでミスがあったからその状況だ。

当然、担当者はどうしてこうなってしまったのか調べなくてはならない。

そこで、調べた結果、次のようなことがわかったとしよう。



3. 現金過不足

② 上記の現金過不足のうち、全額が売上の記帳洩れであることが判明した。

このときには、

(借方) **現金過不足 3,000** (貸方) **売上 3,000**

と仕訳する。

本来、売上の記帳洩れがなければ(=ミス無く仕訳されていれば)

(借方) **現金 3,000** (貸方) **売上 3,000**

となっていたはず。

① (借方) ~~現金過不足 3,000~~ (貸方) **売上 3,000**

② (借方) **現金 3,000** (貸方) ~~現金過不足 3,000~~

現金過不足が相殺されれば同じ仕訳になることを確認して欲しい!



3. 現金過不足

先ほどは、

- ② 上記の現金過不足のうち、全額が売上の記帳洩れであることが判明した。

としたけど、今度は

- ② 上記の現金過不足のうち、¥2,000が売上の記帳洩れであることが判明した。

として考えてみよう。



3. 現金過不足

そうすると

- ① (借方) **現金 3,000** (貸方) **現金過不足 3,000**
- ② (借方) **現金過不足 2,000** (貸方) **売上 2,000**

となるよね。

ここまま、1,000円分の現金過不足の原因が判明せず、このまま決算になってしまったとしよう。

現金過不足は、期末になっても原因がわからなければ、未解決のまま次の年に持ち越すのは適当でない(なぜなら、それを続けてしまうと、何十年も前のミスが反映され続けるかも知れないから)ため、**雑損**または**雑益**として処理するのだ！

つまり、1,000円分については、**「なんかよくわからんが、儲かってしまったお金」**として扱う。



3. 現金過不足

「でも『なんかよくわからんが、儲かってしまったお金』として扱っていいのか？」
っていう疑問があると思う。

でも、原因が結局わからないんだから、このように処理するのが最も合理的なんだ。

理由としては、

1. 時期以降まで(来年以降まで)持ち越すのは適当でない
2. ミスの範囲だから、普通は少額
などが考えられる。

納得して欲しい！



3. 現金過不足

いままでの処理の説明で気がついた人もいるかも知れないけれど、現金過不足は原因がわかれば消えて無くなるし、原因がわからない部分は雑益・雑損に換えられてしまうので、期末になるとかならず消えてしまう勘定なんだ。

そのような仮の勘定としておかれるのが「現金過不足」なので、資産・負債・資本・収益・費用のいずれにも属さないと言えるんだ。

わかってもらえたかな？

では、具体的に見ていこう！



3. 現金過不足

①10,000

②7,000

③3,000

①<現金過不足が生じたとき>

現金の実際有高が帳簿残高より¥10,000少なかった。

(借方) **現金過不足 10,000** (貸方) **現金 10,000**

②<不一致の原因が決算時までにわかったとき>

上記の現金過不足のうち、¥7,000は交通費の支払いが記載洩れてあることが判明した。

(借方) **交通費 7,000** (貸方) **現金過不足 7,000**

③<不一致の原因が決算時までにわからなかったとき>

上記の現金過不足のうち、原因が判明した分以外は原因不明につき雑損とすることにした。

(借方) **雑損 3,000** (貸方) **現金過不足 3,000**

理解できたかな？

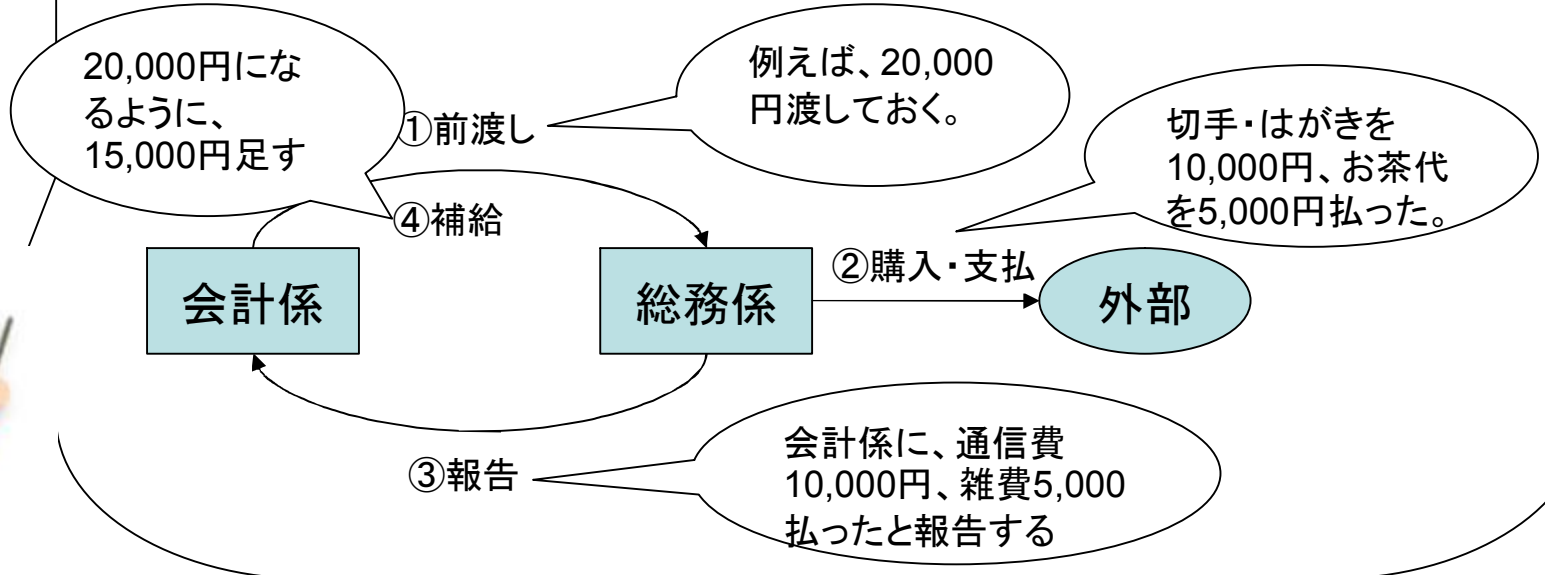


4. 小口現金

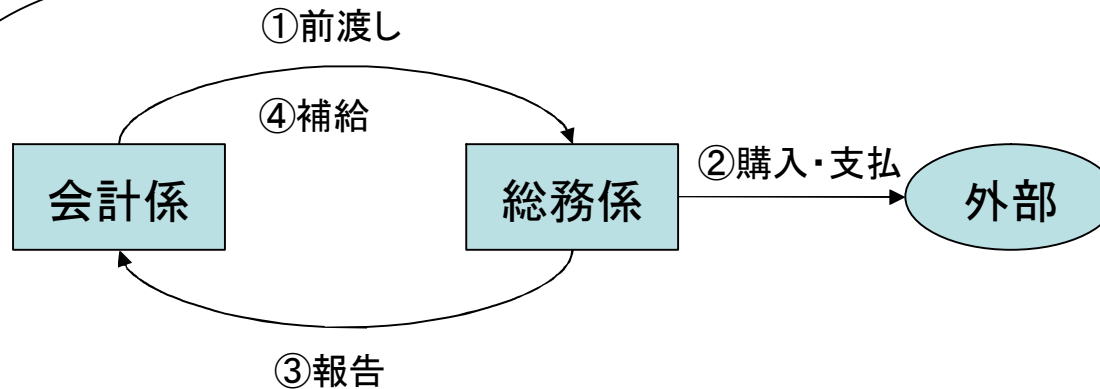
次に、小口現金について説明するよ。

小口現金とは、文房具や切手などといった少額の経費を支払うために、一定額になるようにおいてある現金のこと。

具体的に見た方がわかりやすい！



4. 小口現金

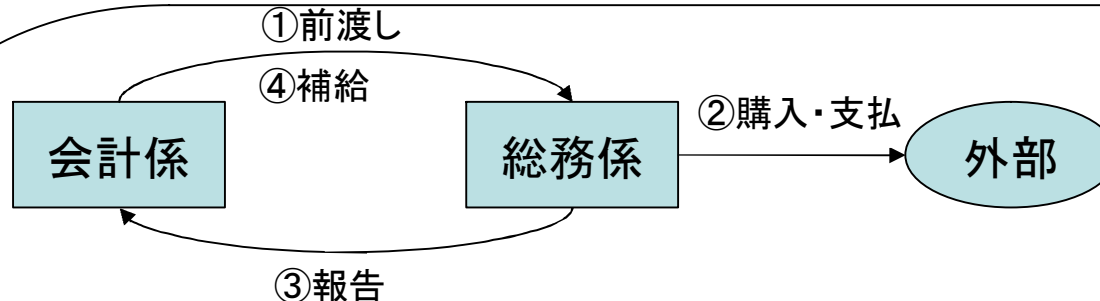


簿記として処理するのは、会計係と総務係の間だけ、すなわち①③④だけ。

では、具体的に仕訳を見ていこう！



4. 小口現金



- ①小口現金 ¥20,000を現金で総務係に渡した。
(借方) **小口現金 20,000** (貸方) **現金 20,000**
- ②総務係が切手・はがきを10,000円、お茶代を5,000円を小口現金から払った。
仕訳なし
- ③上記の通信費10,000円、雑費5,000円支払った旨を総務係から報告をうけた。
(借方) **通信費 10,000** (貸方) **小口現金 15,000**
(借方) **雑費 5,000**
- ④総務係に現金15,000で小口現金の補給をした。
(借方) **小口現金 15,000** (貸方) **現金 15,000**



5. 当座預金

次に、当座預金について説明するよ！

当座預金とは、小切手での取引ができるようするための口座だ。
簿記の仕訳では非常に頻繁に出てくる勘定だ。

当座預金は資産に含まれる勘定なので、
増加は借方(左側)に、減少は貸方(右側)に記入するんだ！

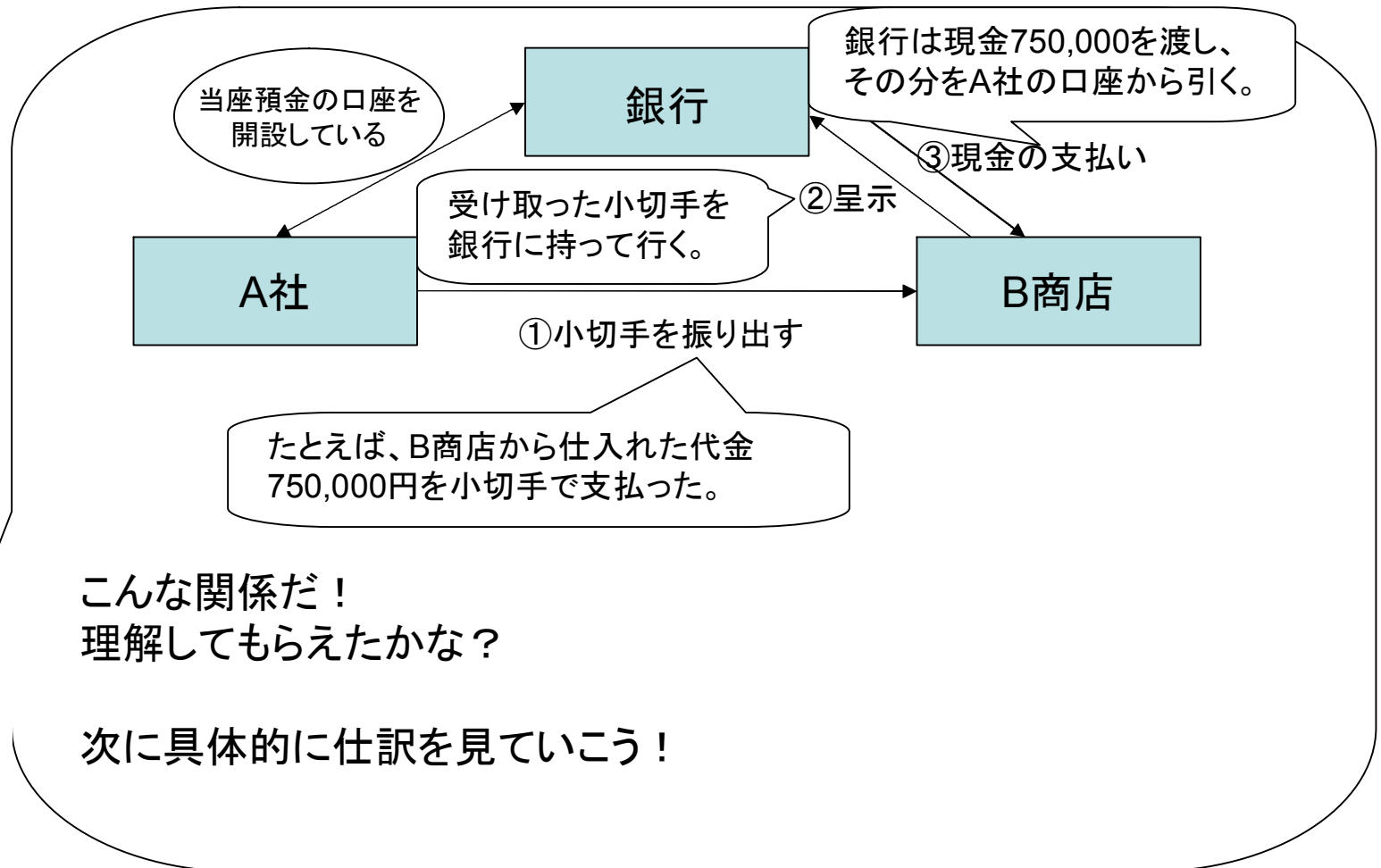
☆当座預金が増加したとき
(借方) **当座預金** ××× (貸方) ×××

☆現金が減少したとき
(借方) ××× (貸方) **当座預金** ×××

さて、小切手の仕組みは次のようになっている。



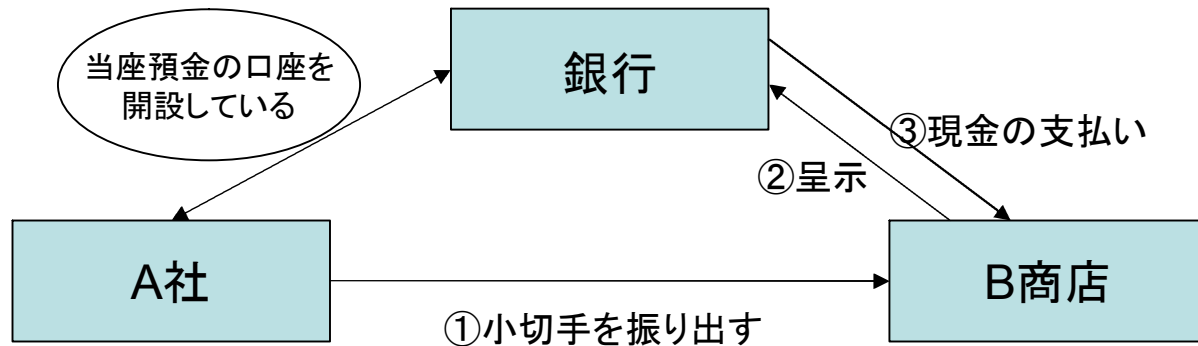
5. 当座預金



こんな関係だ！
理解してもらえたかな？

次に具体的に仕訳を見ていこう！

5. 当座預金

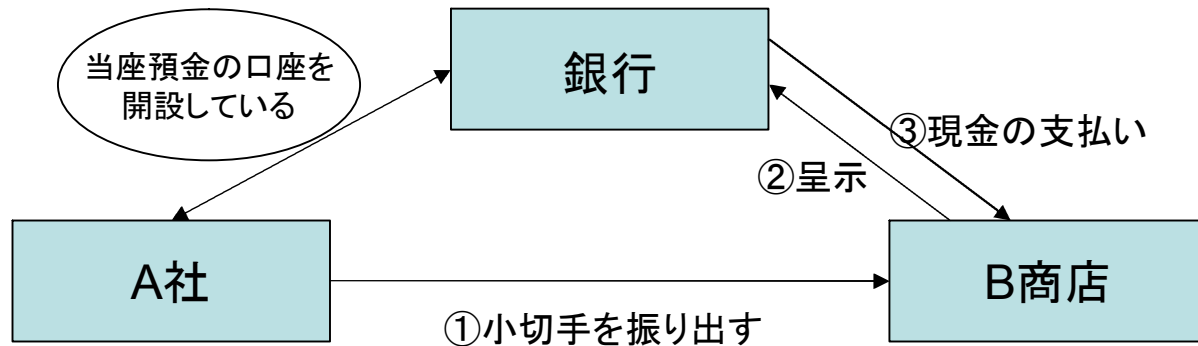


- ① B商店はA社に商品750,000を売り渡し、代金として小切手を受け取った。[B商店の仕訳]
(借方) **現金 750,000** (貸方) **売上 750,000**

小切手はすぐに換金できるため、**他店振出の小切手は現金として仕訳するんだ!**
これはよく問われるポイントだよ。



5. 当座預金



- ① A社に商品750,000を売り渡し、代金としてかねて自店が振り出した小切手を受け取った。
(借方) **当座預金 750,000** (貸方) **売上 750,000**

自店がかつて振り出した小切手がまだ銀行に呈示されておらず、めぐりめぐって自分のもとに戻ってくることもある。
小切手を振り出したときに「当座預金」勘定を使ったので、その逆のときにも当座預金を使うんだ！



6. 当座借越

最後に、「当座借越」についてみていこう。

当座預金では小切手を振り出すので、小切手に書き込んだ額が当座預金の残高を超えていても気がつかずに取引が成立することが考えられる。

このように、当座預金の残高を超えて当座預金を引き出すことを当座借越といい、超過分は銀行から借り入れたことになるんだ。

具体的に見れば、すぐ理解できると思うので、早速見てみよう！

二勘定制と一勘定制があるんだけど、まずは二勘定制から。



6. 当座借越

- ①B商店より、商品 ¥750,000を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。当座預金残高は ¥600,000であったが、当店は取引銀行と当座借越契約(借入限度 ¥1,000,000)を結んでいる。

(借方) **仕入 750,000** (貸方) **当座預金 600,000**
当座借越 150,000

- ②前問において、受取手形 ¥200,000が決済された。当店は直ちにこれを当座預金に預け入れた。

(借方) **当座借越 150,000** (貸方) **受取手形 200,000**
当座預金 50,000

この仕訳を見てもらったほうが、ながながと説明するよりもわかりやすいね。次は一勘定制！



6. 当座借越

一勘定制は、当座預金の預け入れや引き出しを「当座」勘定というひとつの勘定で処理する方法だ。

①A社は、本日商品代金 ¥750,000 を小切手を振り出して支払った。当座預金残高は ¥600,000 であったが、借越限度額 ¥200,000 の当座借越契約を結んでいる。なお、A社は当座勘定を用いて一勘定制を採用している。

(借方) **仕入 750,000** (貸方) **当座 750,000**

これが一勘定制だ。

二勘定制のほうが一般的だ！



まとめ

今日やった内容を今一度確認するよ。

1. 現金とは？
2. 現金の仕訳
3. 現金過不足
4. 小口現金
5. 当座預金
6. 当座借越

この一覧をみて、何をやったか思い出せれば立派なものだ！

このフラッシュを見た後にテキストの該当箇所をみて、理解を深めて欲しい！



おわりに

お疲れ様でした！

さて、次回は手形の取引について説明する。

繰り返すようだけど、時間があればテキストで復習して、
しっかり頭に入れていって欲しい。

それでは！



制作者情報

- 簿記フラッシュ-日商簿記3級
<http://boki3.source-of-information.com/>
これまで作成したフラッシュと内容を公開しています。
- ご意見・ご感想等ございましたら、
info@source-of-information.com
までお寄せ下さい。